

大津島データ
人口 284人 男116人 女168人
高齢化率 79.2%
(平成28年9月30日現在)

題字：六郎万淳一さん イラスト：まゆみさん



潮流



行事報告

9月と10月の島のできごと(一部)を写真で振り返ってみました。



**9/15 敬老会
社会福祉協議会**
大津島体験交流施設「海の郷」の体育館において、約60人の敬老者で「敬老記念行事」を開催しました。踊りやカラオケ、マジックショーなどで盛り上がりました。



9/10、10/12 刈尾海岸清掃
刈尾自治会、瀬戸内の海を美しくする会



9/26 須金交流会
老人クラブ



10/14 長持ち唄 DVD 撮影
長持ち唄保存会、文化スポーツ課、CCS



10/22 学生のいるまちづくり
徳山大学、地域づくり推進課、コミ

特集

防災運動会



非常食(缶詰)バケツリレー

▼報告

周南市役所

大津島支所

神杉朋史

10月16日(日)に島の運動会を開催しました。

今年度から島の学校が休校になったため、子どもたちがいない約100人のオトナの運動会となりました。

運動会のテーマを「防災」とし、定番のバケツリレーでは、支援物資に見立てた缶詰めをバケツに入れて運搬しました。

他にも水消火器での的当てや、防災に関するO×クイズを行い、体や頭を使いながら防災の意識が高まる競技を行いました。

最後は炊き出しをおこない、実際の災害時の食事も体験してみました。

離島の大津島だけでなく、万が一の大規模災害時は広い範囲が混乱状態に陥ってしまいます。そのため、すぐに支援や救助が届かない可能性もあります。この様な場合、皆さんで互いの力を結集し助け合う必要があります。

今後も、運動会など様々な機会をとらえて、「共に」の地域づくりを実践していきましょう。



炊出しでの食事



水消火器での的当て



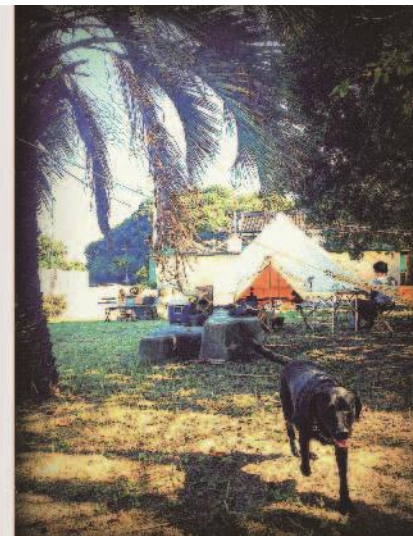
防災O×クイズ

a notebook ヤマトリ雑記帳

文=嶋末由紀

ざっきちょう【雑記帳】秩序だてずいろいろなことを書きつけておく帳面。英 a notebook

NO.2
OBO リトリ・リトリ・リトリ



OBO
OUTDOOR BASE OHZUSHIMA
アウトドア ベース オオズシマ

船じゃなきゃ行かない
旅気分のむこうに待ってる
しま時間の過ごし方
OBO っていうのはどうでしょう？

ワンコもいっしょにキャンプ in 刈尾

随筆

自主防災について

文川大津島の郷
所長 小池良太

先日、自主防災アドバイザー養成講習会に参加してきました。

日本では特に阪神淡路大震災から自主防災の意識が高くなっており、その活動のひとつとしてこういった講習会が増えているようです。

防災用語の中に自助(自分を助ける)、共助(周りの人を助ける)、公助(行政が助ける)の三助があり、自助7割、共助2割、公助1割と考えていかななくてはならないと言われていました。災害時には隣近所に助けを求めようとしても、周りも被災しているのですから自分が安全になってから助けるのはその次に考えるんですね。

では、自助をしようと考えたときに、なにをするべきかは悩むところです。

例えば、私がやっていることですが、

① 逃げ場所を決めておく。
② 逃げ道を決めておく(ふたつくらい道の考え)

③ 防災袋を用意しておく
逃げられる準備をしておく。

④ 「気にしすぎよー」と言われても気にせず早めに逃げる。

の4つくらいは常日頃から準備しておいていけば、いざという時にすぐ行動に移せるようになりますね。防災意識を強く持つて島暮らしをしていきましょ。



知っちょるかね

なんなのう

文川松本千恵子

隣に住む一家のあんちゃんがふく縄から戻り、土産にとらふくをまるごと一匹くれて「よう造るんじやろうがの」と言うのに対して、我が母曰く「なんちゅうてよう造ろう。造ってくれえでまえ」。隣のあんちゃん答えて曰く「なんなのう。土産をやっちよいて、造ってまでやらんにやあならんとは」と言いつつ、自分の家のものより先に手際よくさばいて、刺身と鍋にすれば良いように造ってくれて、「ほら、あとはめんめがやりまえよ」と届けてくれる。もちろんその夜は、美味しいふくの刺身とふくの味噌汁に、一家揃って舌鼓を打ったのだった。

「なんなのう」くだびれ儲けやがっからした

時、思い通りに事が運ばなかった時、思わず口をついて出る島の言葉。最近ではせっかくだいモを植えてもイノシシめにみな食われて

「なんなのう、これじゃあせえがなあ」という会話をあちらこちらで聞くね。

じゃがこの「なんなのう」はまだ絶望まではしていない。まだ後を踏ん張る思いを含んだがっかりを表す「なんなのう」隣のあんちゃんもやれやれではあれど、まあいいかと許しのある「なんなのう」

取っても取ってもすぐ生えてくる草を眺めながら、「なんなのう」と言いつつ明日からもまた頑張るしかないかと、自分を奮い立たす。



大津島の最新情報は、オフィシャルFace book ページ『のほほん大津島』で紹介しています。
<https://www.facebook.com/nohohon.odushima/>

若潮の会通信

この度の運動会、学校の休校と雨天に伴い、体育館での防災運動会となりました。消火器の訓練は中庭で水を使用した訓練。バケツリレーの中は缶詰だったと聞きました。近年の災害(台風、大雨、地震)は、想定外と言った言葉は、通用しなくなっています。自分の身は、自分自身で守る事を基本に、お互いに『もやい』の心で災害に備えましょう。

当日、若潮の会は、競技が気になりつつ、炊き出しの担当でした。まず、運動会開始前より、炭をおこし、大釜に湯を沸かしました。昼食に間に合わせなければ・・・という軽いプレッシャーを感じつつ、パックのご飯に湯を注いで蒸らし、鳥串(200本)や、秋刀魚(100匹)を焼き始めました。秋刀魚は、最初は、外が焦げて中は生だったり、形が崩れたり、どうなることかと、ヤキモキしましたが、途中より火加減良く、コツも掴めて、こんがり焼けました。昼食後、皆さんから、美味しかった!と、言ってもらえ、ホッと一息つきました。楽しい一日でしたが、今後の課題もあり、災害がないことを祈りつつ、来年は是非、青空の下で、行なえますように、念じました。

お知らせ

移動図書館【やまびこ号 Jr.】
11月18日(火)、12月21日(水)
馬島巡航待合所 11:30~12:00
刈尾巡航待合所 12:20~12:50

【編集後記】
各地の紅葉のニュースを耳にするようになり、秋の深まりを感じます。寒暖の差が激しくなっていますので、体調を崩さないように気を付けましょう。
年内は、まだまだ行事が目白押し。頑張ります。
編集委員一同(文責:神杉朋史)

【島の行事予定】	
11月 6日(日)	文化祭
11月12日(土)	ポテトマラソン 拡大実行委員会 ※予備日11月19日(土)
11月13日(日)	回天追悼式
11月20日(日)	若潮の会中須交流会
11月26日(土)~27日(日)	アイランダー(東京)
12月 3日(土)	ポテトマラソン前日準備
12月 4日(日)	ポテトマラソン

【次回発行予定日】
平成29年1月1日 第253号



日々の暮らしの中で、思い通りにならないことにくさらず、ちいさく諦めながらが身を追い詰めないで、地道に生きる島の知恵「なんなのう」島の人口もめっきり減り、聞いておけば良かったと思うことがずいぶんあったのだと気づくこのごろ、たくさんさんの別れに「なんなのう」の島もある。

ひろしのつづき

文川屋野廣志



子供等が中学高校生時に遅れまいと後を追ふ不様な歩を思い出す。40才、すでに老化の始まりか。80年も動けば所々の故障も仕方あるまい。走りも、重きを運びました此足。周囲を見れば我と同じ杖に押し車に支へられし者多い事。此の現状を誰か工学医学の力で助けては呉れぬか。

組合のバス、大きなフエリーの利便、電動椅子車など有難い。だが我が体は「乗らねば」行かねば「急ぐその気持に痛みが迫る。横断歩道の青色の渡の合図に痛みが来る。

最初の外科診療の時の痛みも痛みではあるが、それから2年の此の痛み。痛みにも初期と後期。痛みはあれど、どちらも痛。まだまだ初期と決めて居る。大勢の人の助の今だが、自分の最低限の日常時は自力で出来る。それをも失ふ時が必ず来る。眼鏡有り補聴器のある現在に足腰をしつかり助ける器具の開発はまだか。

パラリンピックの選手の活躍をたたへながらも彼等の最後の幸あれと願ふ。食べる事、見る事、歩む事の出来る幸せも。それを失った時に初めて気が付く事である我である。ひろしひとりつづき。 ※原文のまま掲載しています。